

平成 18 年度事業報告書

1 事業の状況

(1) 奨学金の給付

大学院生 20 名（うち新規 10 名） 1 人月額 25,000 円

(2) 学生寮の維持運営

「該当なし」

(3) 奨学生の指導のための研修会

開催 春冬 2 回
一回あたり参加人数 20 名
一回あたり所用費用 (平均) 475,000 円

(4) 事業の概要

1) 奨学生の採用と奨学金の給付

本年度も前年度同様、下記募集要項をもって募集を行ったところ、応募者が 15 名あり、選考委員会において、そのうち 10 名を本奨学生として決定した。

募集要項	応募資格	日本国内の建築および関連学科を専攻する大学院生
	採用人数	10 名
	奨学金	大学院課程修了まで
提出書類	在学証明書、成績証明書、建築教官の推薦状、大学院における研究テーマの概要	
審査	選考委員会	で決定

本年度奨学生は前年度採用 10 名を加え、総数 20 名である。

奨学金は、月額 25,000 円を 6 ヶ月分まとめて、6 月と 12 月に支給した。

2005 年度奨学生 (10 名)

2006 年度奨学生 (10 名)

2) 奨学ゼミナールの開催

①建築家・櫻井潔氏，建築家・長谷川堯氏を講師に迎え，新旧奨学生参加のもとにゼミナールを開催した。

奨学生には今後の学習・研究面において、大変参考になり好評であった。

開催日 平成 18.6.28 建築家・櫻井潔氏

平成 18.12.4 建築家・長谷川堯氏

3) 優秀作品の表彰

①新建築住宅設計競技 2006 の開催

当財団及び新建築社共同主催による，本年度新建築住宅設計競技は下記課題で行われた。

課題 The Plan-Less House プランのない家

プランとは，生活を記述する手段であると，一般には考えられている。その記述の手法は，分節を原理とする手法である。住宅とは「壁」によって生活を分節する装置であると考えられてきた。それゆえ「壁」という要素だけを選び出し，それを強調して表現すれば，その「壁」を現す図面上の線が住宅の本質を記述したことになるのだと人びとは理解していた。

しかし，住宅とは「壁」だろうか。なぜ家具だけで住宅を記述してはいけないのだろうか。なぜ食器だけで住宅を記述してはいけないのか。あるいは，床のテクスチュアだけで記述する方法はどうだろうか。人間の身体がじかに接する部位は床だけであるから（実はドアノブ，便座もあるけれど），身体によるスキャニングという手法によって住宅を記述すれば，住宅はテクスチュアを持つ床の集積として記述される。あるいは空気の温度として，風の流れの場として匂いの場として住宅を記述することも可能である。

なぜそんなふうに壁という記述方法に対して懐疑的になるのだろうか。

生活を分節し，それに空間的分節を対応させるという方法に違和感を感じるからである。その原因は空間的分節を無効にする「ケータイ」のようなデバイスにあるのかもしれないし，人間関係，家族関係の変化（不定形化）にあるのかもしれない。あるいは，そもそも「生活の分節」の前提であった「生活」のために人は家を建てる時代ではなくなったのかもしれない。人は何か

別の目的のために、住宅をつくるのかもしれないし、もっと突き詰めれば、住宅をはじめとしてあらゆる「モノ」は、なんらかの目的のためにつくられるものではなく、ただなんとなくつくられる時代になったとも言える。それらすべてを見渡してみても、僕はプランがないという状態に関心がある。

締切日 2006年9月11日

審査員 隈研吾（建築家）

本設計競技において、595点、そのうち海外からは42ヶ国から357点の応募作品が寄せられた。そのうちの入賞作品に対し、表彰を行った。

入選発表 12月

入賞者：

1等（1組／賞金50万円）

Yichen Lu

2等（1組／賞金30万円）

熊谷友幸

3等（1組／賞金20万円）

北澤伸浩

佳作（5組／賞金各10万円）

Michael Trudgeon+Costa Gabriel+Glynis Nott+Veronica Saunders

Sergio Del Castillo Tello+Dario Negueruela Del Castillo+Samir

Mhamdialaoui+Vladimir Andelic

Leandro Norena Ramirez

Carlos Moreira Teixeira

Kenji Wong+Samuel Wong+Leslie Lu

②吉岡賞表彰

（住宅作品の表彰）

当財団の主催する吉岡賞（住宅設計における、新人賞）は回を重ね、平成18年度は第22回、吉岡賞表彰式が下記の通り行われた。

吉岡賞は『新建築住宅特集』の新人賞として、住宅作品を通して建築設計の新たな展開に大きな可能性を感じさせる新人の奨励のために、その作品の設計者を表彰するもので、年1回選考が行われる。これは前記『新建築』誌を

創刊した、故・吉岡保五郎を顕彰して設けられたもので、個人が設立した当会の主催により開催される。

今回の審査は『新建築住宅特集』2005年1月号から12月号までの間に掲載された作品に加え、『新建築』誌に掲載された住宅に関係の深い作品を対象にしている。

審査はあらかじめ各審査員から推薦候補作品を5点ずつ、計10点を提示し、その中から座談会形式で最終審査を行い、今回は下記の2作品が入選と決定した。

なお表彰式は下記の通り平成18年4月に実施され、同時に、第22回吉岡賞受賞者による講演会『家づくりで考えること』も行った。

受賞作品 小川広次「阿佐谷南の家」

SUPER-OS（吉村靖孝）「ドリフト」

4) 講演会の実施

①吉岡賞受賞者による講演会

前述の通り、第22回吉岡賞受賞者による講演会『家づくりでかんがえること』を表彰式と合わせて18年4月14日にリビングデザインセンターOZONEにて開催した。

第22回吉岡賞受賞者講演会

平成18年4月14日 会場：リビングデザインセンターOZONE

入場者数：60名

講師 (1)小川広次 受賞作品「阿佐谷南の家」

(2)吉村靖孝 受賞作品「ドリフト」

協力 (株)新建築社

②アイカ現代建築セミナー

当財団が後援をしているアイカ現代建築セミナーは建築文化の向上と発展のために毎年開催されている。本年度は下記の通り開催され、いずれの会場も超満員となり大変好評であった。

第55回アイカ現代建築セミナー

講師：ジャン・ヌーヴェル（建築家）

テーマ：近作を語る

(1) 東京会場

日時： 平成 18 年 6 月 28 日 (水)

場所： 東京都新宿区霞ヶ丘町 7-1 日本青年館大ホール

定員： 1,360 名 (入場無料・申込み制)

(2) 大阪会場

日時： 平成 18 年 6 月 30 日 (金)

場所： 大阪府中央区大手前 4-1-20 NHK 大阪ホール

定員： 965 名 (入場無料・申込み制)

5) 研究補助金の支給

平成 18 年度の研究補助金は下記の通り 2 件に対して行った。

①平成 18 年 5 月 19 日 慶応義塾大学 (玉村研究室) ￥1,000,000

②平成 18 年 7 月 5 日 信州名匠会 ￥200,000